第６学年　社会科学習指導案

１　小単元名　『明治維新から世界のなかの日本へ』
「明治政府と条約改正」

２　単元目標

○　我が国の国力の充実や国際社会での地位の向上の様子について意欲的に調べることができる。
（関心・意欲・態度）

○　陸奥宗光・小村寿太郎ら明治政府が条約の改正に成功した理由について考えることができる。
（思考・判断）

○　日清・日露戦争，条約改正，大日本帝国憲法，産業の発展について調べることができる。
（観察・資料活用・表現）

○　我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことが分かる。（知識・理解）

３　指導にあたって

（１）　教材観

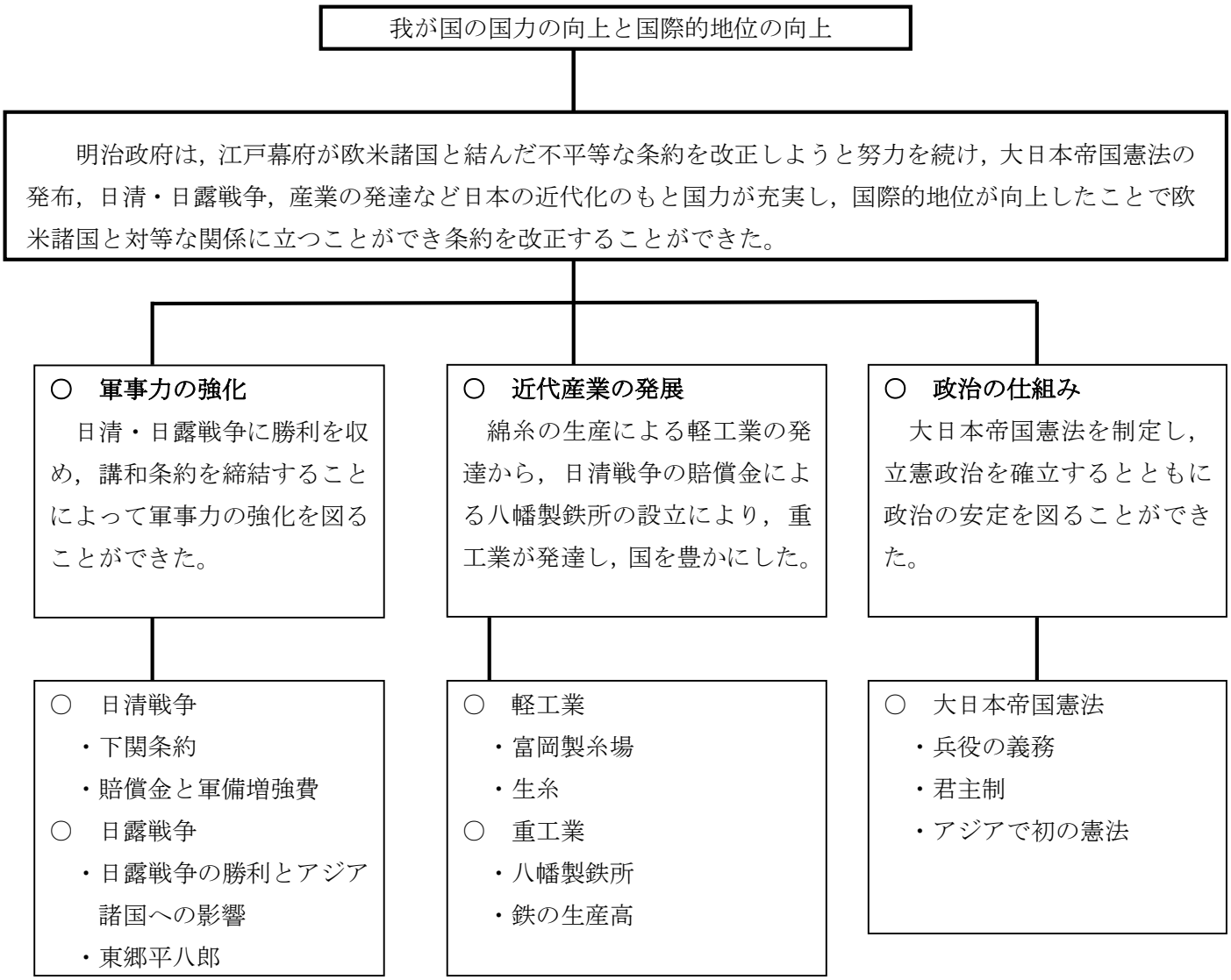
本小単元は，条約改正の道のりを調べることを通して，大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争の勝利，産業の近代化などの結果，日本の国力が充実し，国際的地位が向上していったことを理解することがねらいである。

１８５８年に江戸幕府がアメリカ合衆国，イギリス，オランダ，ロシア，フランスと結んだ通商条約は，日本に関税自主権がなく，また外国人の治外法権（領事裁判権）を認めた不平等な内容をもった条約だった。政府は，条約改正のため７１年に岩倉具視らを欧米に使わしたのを始め，７８年の寺島宗則の交渉，８２年の井上馨の交渉などを行うがなかなか改正には進まなかった。そして８６年にノルマントン号事件が起きた。イギリス貨物船ノルマントン号が紀州沖で難破した際，船長ドレイク以下イギリス船員２６人のみが脱出，日本人乗客２５人は全員船中に遺棄されて水死した。事件では治外法権が適用され，乗客を見逃しにした船長を日本側で裁判することができなかった。国民はこの事件により，国権回復の必要を痛感し条約改正にあたり，政府の不徹底な改正案への反対運動を一層高める契機となったのである。

そのような背景の中で，国会で内閣制度の成立，憲法発布，議会の開設など，立憲政治の仕組みが整い国力が充実していきながら同時に条約改正交渉も進められていった。日清戦争が始まる直前の９４年，外務大臣陸奥宗光は，イギリスとの間に日英通商修好条約を結んで治外法権の廃止に成功した。また各国との条約も改正された。そして，日清・日露戦争の勝利にみられる軍事力の強化や，八幡製鐵所の建設における産業の発展により，国際的な地位が高まり国力が高まったことを好機に１１年には外務大臣小村寿太郎が関税自主権の回復に成功した。条約改正事業を完成し，欧米諸国と完全に対等の立場にたつまでに通商条約締結から約６０年の時間がかかったのである。

以上のような条約改正の道のりを，明治政府の動きを中心に追究していくことは，本単元のねらいを達成する上で意義深い。

○　単元構成図



（２）　児童観

本学級の子どもたちは，これまで歴史学習においては，人物の考えや生き方，業績などの追究に高い関心をもちながら学習を進めてきている。

前単元「徳川家光と江戸幕府」の小単元では，江戸幕府３代将軍徳川家光を取り上げて，学習問題「徳川家光は，どのようにして２６４年間続いた江戸幕府を維持させたのだろう。」を設定し，追究の視点を「農民に対して」「大名に対して」「外国に対して」の３つに分け，追究活動を行った。また，「新政府による政治」では江戸時代から明治の世の中になって変化したことを，西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允を中心とする明治政府の国づくりという視点で追究している。追究後の話し合いでは，明治政府は富国強兵の国づくりのために様々な諸政策を行ってきたことを捉えている。

このような人物中心の学習を通して，子どもたち自身が人物に興味を持ち，歴史の本や，資料集，インターネットなど資料を積極的に集めていきながら人物の想いや生き方を考えていく姿が見られるようになった。「調べ学習」については与えられた資料をもとに学習問題を設定し，子どもたちは様々な視点から学習問題の答えにつながる資料を集め，自分の考えをつくることができている。しかし，それぞれが追究したことを話し合い，自分の考えの見方・考え方を深める段階においては，子どもたちは自分の考えの根拠をもとに伝えることはできているが，「付け加え」や「質問」などを通して，他の考えに学びながら自分の考えを再構成したり，新たな社会的事象に適用したりというところまでは十分ではない。今

後は，自分と友達の考えをつないだり，まとめたりして，より広い視野から歴史的事象の意味を考える力をつけていきたい。

（３）　方法観

・　つかむ段階

まず，ノルマントン号事件の風刺画を提示する。この風刺画をもとに日本人乗客２５人全員が溺れ死に，ボートに乗って助かったのは全て欧州の人々であったということ，その後の裁判でもイギリス人の船長と船員が無罪になったことに気付かせる。（後に３ヶ月の禁錮）

この不平等な関係の理由について話し合わせる中で，その原因が幕末の不平等条約にあったことに気付かせ，なぜ当時，江戸幕府はそのような不平等条約を欧米諸国と結んだのかも確認させておく。その後，明治政府の主な交渉について確認していく。岩倉使節団や鹿鳴館を取り上げ，まだ日本の産業が発達していないことや政治の仕組みが整ってなく，交渉が失敗したことに気付かせていく。

そして交渉が失敗に終りながらも，１８９４年と１９１１年に不平等条約が改正されたことをおさえ，不平等条約を改正できたわけを調べたいという意識を持たせる。このようにして学習問題「明治政府は，なぜ不平等条約を改正することができたのだろう。」をつくる。

・　さぐる段階

つかむ段階の交渉の経緯を迫った年表に，国内外の情勢を加えた年表を提示する。その年表から条約改正に関係がある事柄を発表させる。このとき，なぜその事柄が条約改正へと関係しているのかという理由を持たせておく。その話し合いからＡ　日清・日露戦争に勝利し，軍事力が強くなった　Ｂ　八幡製鉄所がつくられ重工業が発達した　Ｃ　大日本帝国憲法が発布され政治が安定したの３つの視点に整理する。

次に，自分なりに資料を収集したり選択したりする時間を確保し，自分の考えの根拠となる資料を明らかにする。Ａの根拠となる資料は，日清・日露戦争の勝利や下関条約で得た賠償金，植民地をもったことが挙げられる。Ｂは富岡製紙工事用や八幡製鐵所に代表される軽工業や重工業の発達を示す資料が根拠となる。Ｃは大日本帝国憲法の資料が根拠となる。自分で集めた資料をもう一度見直させ，どんな事実があったのか，それが条約改正とどのように結びつくのか自分の考えを表現物にまとめさせる。

・　まとめる段階

最後に，３つの視点ごとに調べた内容を出し合いながら，学習問題の答えを確かめる話し合いを行う。まず日清・日露戦争，次に産業の発達，そして政治の仕組みが整ったことを取り上げて話し合う。そして，産業の発達と戦争の勝利はつながりがあることや政治の仕組みを整えてきたことを明らかにして，国力が充実し国際的地位が向上していったことを捉えさせたい。そして陸奥宗光・小村寿太郎らの外交努力と共に軍事力の高まりや憲法の制定，近代産業の発展など，日本の国力が充実し，国際的な地位が向上したから条約改正ができたという学習問題の答えをまとめる。

４　指導計画（７時間）

段階	配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点
つかむ	1	1　資料や年表から学習問題をつくる。 （1）　ノルマントン号事件の風刺画について話し合い，事件の概要をつかむ。 ・　日本人全員死亡 ・　イギリス人船長軽罪 ・　不平等条約 （2）　条約改正の年表をもとに時代背景をつかみ学習問題をたてる。 学習問題 明治政府は，なぜ不平等条約を改正できたのだろう。	○　ノルマントン号事件が何を意味しているのかを捉えるために，既習内容の掲示物をもとに不平等条約をふり返らせる。 ○　条約改正までの交渉をカードにしておき，年代による順番を確認できるようにする。
さぐる	1	2　学習問題に対する予想を立てる。 〈子どもの予想〉 ○　日清・日露戦争に勝利したから。 ○　八幡製鉄所ができたから。 ○　大日本帝国憲法が発布されたから。 【考えA】 ・日清・日露戦争に勝利し，軍事力が強くなった。 【考えB】 ・八幡製鉄所がつくられ重工業が発達した。 【考えC】 ・大日本帝国憲法が発布され政治が安定した。	○　不平等条約を結んだ理由や，条約改正までの交渉の経緯を確認し，学習問題に対する予想の見通しを持たせるようにする。 ○　予想の根拠を持たせるために，年表に国内外の情勢を入れておく。
	3	3　調べる計画に従って追究し，まとめる。 （1）　自分の課題に沿って必要な資料を選び，まとめていく。 （2）　表現物に自分の考えを整理し，まとめる。	○　自分の課題を調べるために適切な資料を選び，活用の仕方について支援をする。 ○　学習問題に対する自分の考えをまとめることができるように，軍事力の強化，近代産業の発展，政治の仕組みが条約改正にどのように結びつくのかをおさえるようにする。
	1	4　調べたことをもとに同じ視点のグループで話し合う。 （1）　考えを説明し合い，自分の考えの不十分な点を補う。 （2）　質問へのこたえを確認し合う。	○　同質のグループを組ませ，発表し合い，自分の考えの付加・修正ができるようにする。 ○　自分の発表内容が，条約改正につながるかという視点で，質問のこたえを考えさせる。
ま		5	

とめる		条約が改正できたのは，陸奥宗光・小村寿太郎らの外交努力と共に軍事力の高まりや憲法の制定，近代産業の発展によるものである。	○　子どもの考えが深まっていくように，代表児にそれぞれの主張点を発表させ，意見を付け加えていけるようにする。
ふかめる（本時）	2	5　調べたことをもとに討論会を行う。 ○　条約改正の一番の理由について，それぞれの視点から討論し考えを広げ，深める。 ・　国力の充実 ・　国際的な地位の向上 ・　富国強兵 条約が改正できたのは，陸奥宗光・小村寿太郎らの外交努力と共に軍事力の高まりや憲法の制定，近代産業の発展など，日本の国力が充実し，国際的な地位が向上したからである。	○　一つの視点からの発表内容を事前に他の子どもにも把握させておき，質問・付け加えの内容を個人カルテにして交流の仕組み方を立てて子どもの考えが比較・関連できるようにする。 ○　それぞれの視点を関連付けさせて「国力の充実」「国際的な地位の向上」を捉えるようにする。 ○　明治政府がこれまで富国強兵を目指して取り組んできたことをおさえる。

まとめる （本時）	1	5　条約改正ができた理由について話し合う。 （1）　条約改正の理由について話し合い，共通点を見付ける。 【考えA】 ・日清・日露戦争の勝利による軍事力の強化 【考えB】 ・八幡製鉄所による重工業が発達 【考えC】 ・大日本帝国憲法による政治の安定 【共通点】 ・　国の力が充実した ・　日本の国際的な地位が向上した 富国強兵の国づくり （2）　全体での話し合い活動をもとに条約改正の理由をまとめる。 条約が改正できたのは，陸奥宗光・小村寿太郎らの外交努力と共に軍事力の高まりや憲法の制定，近代産業の発展など，富国強兵の国づくりを目指し、日本の国力が充実し，国際的な地位が向上したからである。	○　それぞれの視点からの発表内容を事前に他の子どもにも把握させておき，質問・付け加えの内容を個人カルテにして交流の仕組み方を立てて子どもの考えが比較・関連できるようにする。 ○　それぞれの視点を関連付けさせて「国力の充実」「国際的な地位の向上」を捉えるようにする。 ○　3 つの視点をまとめるとともに，陸奥宗光・小村寿太郎の条約改正に至るまでの働きについて捉えさせる。 ○　明治政府がこれまで富国強兵を目指して取り組んできたことをおさえる。

7　本時　（7/7）　平成２０年１０月２０日（月）５校時　６の△教室にて

6　本時の目標

○　条約が改正できたのは,陸奥宗光･小村寿太郎らの外交努力と共に,軍事力の高まりや憲法の制定など,日本の国力が充実し，国際的な地位が向上したことに気付くことができる。

○　交流活動を通して，自分の考えについて根拠を明確にして相手に伝えるとともに，友達の見方・考え方のよさに気付き，自分の考えを付加・修正をすることができる。

7　本時指導の考え方

○　本時は，学習問題の答えについて，互いの考えを聴き合うことを通して，友達の見方・考え方のよさに気付き，明治政府は，陸奥宗光・小村寿太郎らの外交努力と共に，軍事力の高まりや憲法の制定など，日本の国力が充実し,国際的な地位が向上したことによって欧米諸国と結んだ不平等な条約を改正できたことを捉えることがねらいである。

前時までに子どもたちは学習問題「明治政府は，なぜ不平等条約を改正できたのだろう。」について自分なりに考えを持って追究活動を行ってきている。子どもたちの考えは，A　日清・日露戦争に勝利し，軍事力が強くなった　B　八幡製鉄所がつくられ重工業が発達した　C　大日本帝国憲法が発布され政治が安定したの３つの視点に集約されている。子どもたちのノートにはそれぞれの主張点とその考えのも

とになる具体的な資料がのせており，それを「考えカード」として表現物に整理しまとめてきている。そして，前時ではそれぞれの視点ごとに調べてきたことを話し合い，自分の考えの付加・修正や，他の視点に対する質問事項や，質問に対するこたえを話し合っている。

そこで，本時は条約改正までの事実認識から，相互のつながりへと広げ深めていき，「国力の充実」「国際的地位の向上」が条約改正へとつながったということに気付くために次のような手立てで学習を展開していく。

まず，考えＡ・Ｂ・Ｃそれぞれの立場でグループでの話し合い活動を行う。違う考えの友達と聴き合うことで友達の考えと根拠のつながりを確かめることと同時に，共通点「国力の充実・国際的地位の向上」を導き出していく。

次に，全体でそれぞれの視点の考えに対する質問や付け加えを行っていく。そのために発表者には，自分の考えをまとめた表現物とともに，その根拠となる資料を提示し，相手に分かりやすく伝えさせる。聴き手には，学習問題に対して友達の考えと条約改正に妥当性があるかを考えさせ，他の視点に対しての質問を行わせる。

そして，それぞれの主張をつなげ広げていくために，戦争の賠償金で八幡製鉄所ができ産業が発達してきたことや，八幡製鉄所により，ロシアとの戦争にそなえて兵器などをつくるもとになる鉄鋼が多く生産されたこと。また，大日本帝国憲法と戦争の関わりについて捉えていきながら，軍事力も産業も政治もどれも切り離すことのできないつながりがあることに気付かせる。

最後に，条約改正に携わった陸奥宗光や小村寿太郎の外交努力を知らせ，明治政府は，日本の国力の充実と国際的地位の向上など，「富国強兵」の国づくりを行ってきたということをまとめさせる。

子どもたちはお互いの考えの違いを認めながらも，友達の考えのよさに気付き，条約改正ができたことへの見方・考え方を深めることができると考える。

自分の考えを主張するときは，根拠をもとに自分の主張点を明確にさせて発表させる。聞くときは自分の考えと比べて同じところや違うところに注目していきながら付け加えや質問をし，活発な交流活動になるように仕組んでいく。

８　本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
１　これまでの学習をふり返り，本時のめあてを確認する 学習問題 明治政府は，なぜ不平等条約を改正できたのだろう。 本時のめあて 条約改正ができた理由について話し合い，友達の考えのよさを見付け，自分の考えを広げ，深めよう。	○　学習の流れを確認し，見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。 ○　既習の学習とつなげて発言できるように既習の学習掲示物を提示する。
２　調べたことをもとに交流活動を行う。 （１）　異質グループで話し合う。 ○　３つの視点からの共通点を出す。 【考えA】・日清・日露戦争の勝利による軍事力の強化 【考えB】・八幡製鉄所による重工業が発達 【考えC】・大日本帝国憲法による政治の安定 《根拠となる資料》・日清戦争・下関条約・日露戦争 《根拠となる資料》・八幡製鉄所・鉄の生産高・下関条約 《根拠となる資料》・大日本帝国憲法 ・国の力が充実した ・日本の国際的な地位が向上した	○　友達の考えと，条約改正のつながりに注目させて聞くようにする。 ○　子どもたちに話し合いの視点を明確に持たせるために考えの根拠となる資料を提示しながら説明ができるようにする。 ○　岩倉使節団での交渉失敗の理由をふり返ることや，その後の日本の社会の変化を外国はどう思っているのかを考えさせ，「国力の充実」と「国際的地位の向上」の二つの共通点を導き出すことができるようにする。
（２）　全体で話し合う。 ○　代表児童の発表に対する質問・付け加えを出し合う。 ○　３つの視点のつながりを見出す。 ○　軍事力の強化 ・日清戦争　・日露戦争 ・下関条約 ○　産業 ・八幡製鉄所 ○　政治 ・大日本帝国憲法	○　子どもの考えを比較・関連させるために，一人ひとりの考えを個人カルテにとっておき，交流の仕組み方を工夫する。 ○　それぞれの視点がなかったら条約改正ができたかという考えのもと，互いにつながりあっていることに気付くことができるようにする。 ○　板書の構成を工夫し，それぞれの相互のつながりが視覚的に分かるようにする。 ○　陸奥宗光・小村寿太郎の条約改正までの努力を知り，明治政府が「富国強兵」を目指しての国づくりを行ってきたことに気付くことができるようにする。
３　本時の学習をふり返り，まとめる。 ・国力の充実 ・国際的地位の向上 富国強兵の国づくり	
条約が改正できたのは，陸奥宗光・小村寿太郎らの外交努力と共に軍事力の高まりや憲法の制定，近代産業の発展など，富国強兵の国づくりを目指し，日本の国力が充実し，国際的な地位が向上したからである。	
４　今日の学習でを書き，自分の考えをふり返る。	○　はじめの考えをふり返らせ，考えの変容を中心に今日の学習でを書かせる。